

池田名勝・神社新聞

池田神社

がけの上に建てられている。戦国時代には、とりでだったそうです。その後、江戸時代には、金毘羅神社が、まつられていました。それから、約百年前に池田地区の九つの神社が一つにまとめられ、新しく「池田神社」が誕生しました。しかしその後、宍粟地区の二つの神社が分かれて、元の所に、帰ったため、今では七社となり、槇谷地区と見延の人びとによってまつられている。の神様ですが、おまいりする人は、健康や受験の神様としてお願いをしています。



豪溪

「豪溪」とは、大きくて力強く素晴らしい景色のこと。大きくて天にもとどくような岩と、槇谷川のきれいな水の音が聞こえることから、大正十二年国指定名勝地」になりました。小学校の校歌「槇谷川の水清く日いずる豪溪の山河の冷氣こる所」は、この豪溪が歌にされています。春は、桜、秋にはもみじを見に遠くから多くの人びとがおとずれています。



井風呂谷川

砂防公園

昔、高梁川では船を使っているような物を運んでいました。見延村では、山の木をたくさん切って売りに出したため、井風呂谷のまわりで山くずれが起こり、大雨の時には田や畑が流される災害が発生しました。そのため、今から約百三十五前に、岡山県が全国で初めて砂防工事(山の土や砂がくずれないようにする工事)をすることが、この命令をだしました。この工事により、その後は災害がなくなりまし。いまでは国の「有形文化財」としていされ、公園となりました。公園には「砂防発祥の地」と書いてあります。

